

東京すくわくプログラム活動報告書 ② テーマ:砂・水・泥遊び

〈テーマの設定理由〉

乳児期から泥んこ遊びを楽しみ、泥や水の感触に親しんでいる。泥んこになって遊ぶことで、五感を使い、想像を膨らませてやり取りや遊びを広げていくことが出来る。年間を通じて、全身泥んこになり思い切り遊びたいと考えテーマにした。

今回は、子どもたちが園庭でサラサラの砂を触り、感覚を楽しんでいる姿があった。水を加えることで感覚の違いを発見したり、その後どのような遊びに広がっていくかを観察した。

社会福祉法人たつの子の会
羽村しらうめ保育園

2歳児クラス

2025年7月29日(火)

〈活動の内容〉

- ・砂や水の感覚を楽しみ、それらを混ぜ合わせる感触や感覚を味わい変化する砂の状態を楽しむ。
- ・砂の色や音、匂いや手触りなどを楽しむ。

〈準備した素材や道具、場所〉

道具…タライ、バケツ、砂、水、鍋やお椀など

環境…園庭、日除けのためのテント

〈子どもの様子〉



バケツで水をくみ、運ぶ。
水を流しサラサラの砂に水が染み込んでいくと
手でバシャバシャと叩いたり
足で踏んで感覚を味わい
「気持ちいい」「冷たい」とキラキラした表情だった。



砂と混ぜ合わせて感覚を楽しんでいた。

なんか形が出来てきたなあ



まぜまぜ…
ザラザラしてる～…

握ったり潰したり
捏ねたりしながら
夢中になっている。



準備していた鍋を使いカレーライスを作る！と質感の違う砂で見立て遊びが始まった。



○振り返り

- ・普段から砂水遊びを楽しんでいるが、砂に水を混ぜ、変化する感覚や感触に夢中になっていた。サラサラの砂に水を合わせる時は“どうなるんだろう”とワクワクする様子が見られ、手で泥を捏ね、握り、掴んだり叩いたりすることで更に遊びを楽しみ夢中になって楽しんでいた。様々な感触を味わいながら、形を作ったり見立て遊びを楽しむ姿があった。
- ・鍋やお椀等の道具を使うことで、友だちとの関わりが広がり、見立て遊びやイメージを共有し、想像力豊かに楽しんでいた。崩れたり壊れてしまっても作り直したり入れ直す等、何度も繰り返して遊びが続いていた。